

国立病院機構 八雲病院 石川悠加先生からのスクールバスでの痰づまりに対するアドバイス

・体位排痰法は、ICU や病院で肺炎や無気肺を治療する場合などに しばらく末梢から痰を寄せ集める方法（下気道クリアランス）なので、今回のようなもっと上気道で痰が詰まっているものは、咳や咳介助で出す（上気道クリアランス）事が優先されます。

・動的咳介助は、緊急時には難しいと思います。

今回のようなスクールバスの中での痰づまりに対しては、

①まず、気道が真っ直ぐなるような位置に頸や頭の位置をしてください。

②喉元に痰や食物がありそうな場合は、指を入れて取り除くようにしてください。

また、頭だけを横向きにして、喉元に溜まっているものを指を入れてでも出してください。

③胸から首にかけて比較的真っ直ぐに保てる筋力が維持されている状態なら、後ろから抱きかかえてハイムリック法をします（パワーポイントに写真があります）

④ハイムリックをすると、胸から首がぐらぐらして屈曲してしまう場合は、抱きかかえるのが困難と思われ、シーートのリクライニング（60度以下に背もたれが倒れるように、人手があれば人間イスでもたれかからせて良い角度にする）か、後部の長い座席などで（2席分で横になっても可です）仰臥位にするか、床に何か敷いて仰臥位（やや側臥位でも可）にしてください。

または、それができないような小さなバスや座席が満席の場合は、バスから降りて歩道に下にタオルを敷くか、ベンチか近くの民家をお願いして場所を借りて仰臥位（やや側臥位でも可）にして胸腹部の呼気時に徒手圧迫介助をしてください。この方法は咳の弱い方は、普段から病院より習得しておいてください。

④息が弱かったり顔色が悪い場合は、救急蘇生バッグが無ければ、マウスツーマウスで換気補助してください。

肺活量や咳が弱いことが病院で検査してわかっている方で、救急蘇生バッグでの換気補助に慣れている場合は、救急蘇生バッグによる手動換気補助を周囲の方が緊急時用に習っておいて、救急蘇生バッグを積んでおいて、このような時は換気補助できるようにしておいてください。

⑤ ④の後に③を行うことができます

⑥普段からカフアシストを使っている方の場合は、カフアシストをスクールバスに乗せて、誰かが使えるようにしておいてください。

⑦上記は、救急車を呼んで待っている間にしてください（上記を最小限に切り上げて、救急車を待てる時間が無いと判断したら、タクシーか近くの車で病院に向かうことも必要と思います）。

上記の方法で出ないものや出切らない場合は、病院で気管挿管などで出すことになると思います。

また、何かありましたらご連絡ください。

どうぞよろしくお願いいたします。

石川悠加